

防災特集号

- 2023 -

<https://chiyoda-someino.com>



2023年11月
発行責任者
千代田・染井野
まちづくり協議会
会長 長島成幸

首都圏直下型地震発生！私たちへの支援物資はいつ届くのか!?

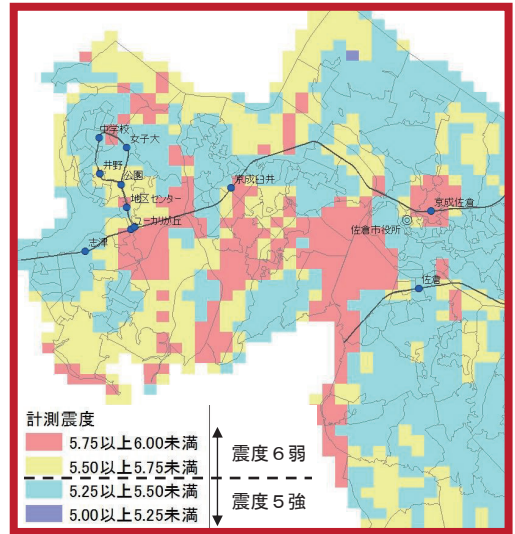
必ず発生すると言われている『首都圏直下型地震』。
まち協 NEWS で以前お知らせしたように、関東大震災のような海洋型といわれる M8 クラスの地震は、200 年に 1 回程度発生すると言われています。その間に、大きな直下型地震（M7 クラス、阪神大震災レベル）が数回発生します。

実際に、1703 年に発生した元禄関東大震災と大正関東大震災（1923 年）の間隔は 220 年。その間の前半を“静寂期”、後半を“活動期”とすると、M7 クラスの直下型地震の大半は活動期に集中しています。関東大震災から今年で 100 年。そろそろ活動期に入ってくる時期になります。

『備蓄の重要性』を繰り返し発信する理由とは？

まち協がしつこく『備蓄の重要性』を訴えているのは、なかなか住民の備蓄量が進まない現状があるからです。「必ず自衛隊が支援物資を届けてくれる」という期待のため、「最低 3 日分程度あれば何とかなる…」と思いがちです。

支援物資は必ず来ます。問題は「いつ、誰に」です。

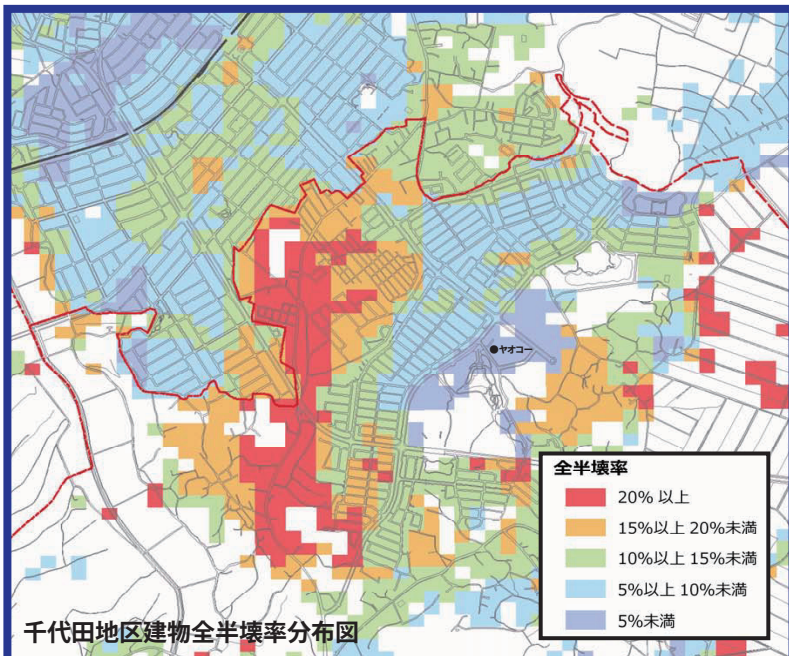


東京湾北部地震計測震度分布図
(佐倉市北西部、千代田地区周辺)

佐倉市、揺れ・液状化による建物被害

地区名	全建物棟数	全壊棟数(率)	全半壊棟数(率)
佐倉地区・計	10,306	90 (0.9%)	727 (7.1%)
白井地区・計	10,951	83 (0.8%)	831 (7.6%)
志津地区・計	21,852	239 (1.1%)	1,981 (9.1%)
根郷地区・計	9,241	61 (0.7%)	589 (6.4%)
和田地区・計	1,117	3 (0.3%)	47 (4.3%)
弥富地区・計	1,097	16 (1.4%)	119 (10.8%)
千代田地区・計	3,870	71 (1.8%)	500 (12.9%)
合計	58,434	563 (1.0%)	4,794 (8.2%)

※合計は、小点数以下の四捨五入の関係で合わない場合がある。
※全壊棟数とは、柱・梁・壁が破壊され、居住空間が欠損した建物の棟数。
※全半壊棟数とは、全壊棟数と半壊棟数を足合わせたもの。
※なお、半壊棟数とは、柱・梁・壁の一部が破壊されても、居住空間は欠損していない建物の棟数。



千代田地区建物全半壊率分布図

左図は、住宅団地を中心とした『千代田地区建物全半壊率分布図』です。地震の揺れだけでなく、液状化によっても建物への影響が出てきます。

佐倉市全体では全半壊率は 8.2%。千代田地区の倒壊率が高いのは、農家で古い建物を物置代わりに使用している場合があり、倒壊数が多くなります。

全半壊になった建物に住むことはできません。さらに、半壊までではなくても、“住むには危険”な建物もあります。そういった方々が頼るのが、地域の避難所ということになります。(次ページへ)

*資料の図表は『佐倉市防災アセスメント(平成25年)』より

首都圏直下型地震における佐倉市の支援体制の概要

佐倉市危機管理課で防災官を務める荒井氏は、現職自衛官として、阪神・淡路大震災や東日本大震災などで救援活動に従事した経験をお持ちです。震災時の被害現場の状況も考慮した上で、想定される首都圏直下型地震に対し、具体的な支援体制についてお話していただきます。



佐倉市防災官
荒井博友氏にお話を伺う

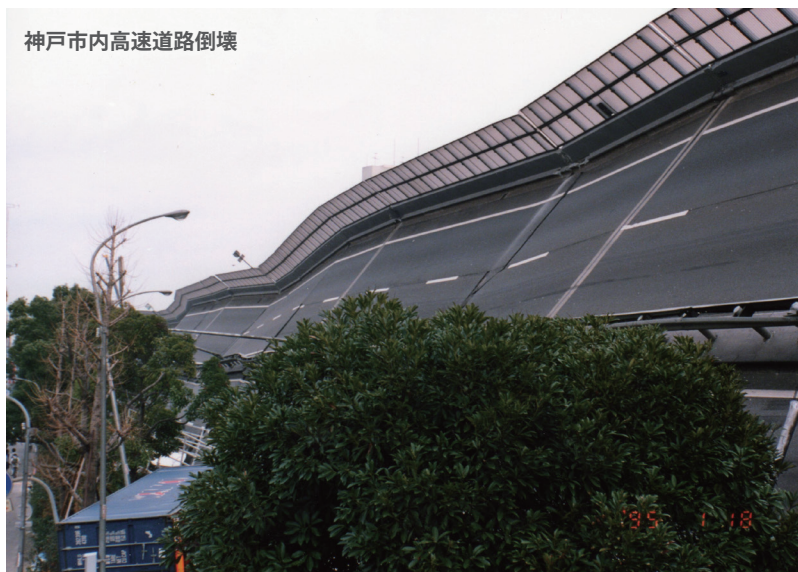
Q. 首都圏直下型地震に近い阪神・淡路大震災の時の状況をお話し下さい。

(荒井防災官) 地震発生が4時46分。朝食を作る前の時間帯でしたが、それでも長田地区では大火災が発生。停電になり消火栓がまったく機能しなかったため、消火活動は困難を極めた。唯一使用可能な海水を考えた。「財産価値が下がる」という住民の反対も一部にはあったが、海水をくみ上げて、懸命の消火活動を展開した。



Q. 神戸の場合、比較的地盤がしっかりとしていて、大地震は起こらないと考えられていたようですが…

地震に備えて訓練を実施しようという提案に対し、神戸市長や兵庫県知事は「ここは地震が起こりませんから」ということで、計画も備えもない状況だった。実際に阪神・淡路大震災が発生した時は、神戸市役所も兵庫県庁もまったく機能しなかった。被害状況も分からない中で、陸上自衛隊幹部が県庁に入り、人命救助の指揮を執った。



Q. 実際の救助活動はどうでしたか？

まず名古屋・近畿・中四国から自衛隊の部隊を約9000人集めた。さらに不足したので全国から応援を頼んだ。

道路は大渋滞。阪神高速道路は倒れているので被災地に寄り付けない。緊急物資の輸送にもルールがない。

自衛隊が被災地に入るまで10時間を費やした。部隊を分散して被災地に入り、どこでもいいから拠点を作って人命救助にあたった。発災後、数日経過してようやく被害の全体が明らかになってきたので、部隊を再編制し直して救助にあたった。発災10日後、ようやく救助活動はひと段落した。

首都圏直下型地震に関しては、関係首長の防災意識は高く、様々な計画が作られている。ただし、それで安心とは言えない。千葉県は備蓄食料は42万食しかないなど、物資に関しては住民の備蓄に大きく頼らざるを得ないのが現状と言える。

首都直下地震における具体的な応急対策活動に関する計画の概要

(平成28年3月29日中央防災会議幹事会決定、令和5年5月23日最終改定)

救助・救急、消火等	医療	物資	燃料、電力・ガス、通信
<ul style="list-style-type: none"> ◎広域応援部隊の派遣規模(最大値) ○1都3県以外の43道府県の警察・消防・自衛隊の派遣(最大値) ・警察 : 約1.4万人 ・消防 : 約2.1万人 ・自衛隊: 約11万人(※) 等 ※ 1都3県に所在する部隊を含む。 ○応援地方整備局等管内の国土省 TEC-FORCEの派遣: 約1,940人 ◎航空機約320機、船舶約240隻 	<ul style="list-style-type: none"> ◎DMAT(登録数1,754チーム)に対する派遣要請、陸路・空路参集、ロジ支援、任務付与 ◎被災医療機関の継続・回復支援(人材、物資・燃料供給等) ◎広域医療搬送、地域医療搬送による重症患者の搬送 	<ul style="list-style-type: none"> ◎発災後4~7日に必要な物資を調達し、被災都県の拠点へ輸送 ・飲料水: 23万㎡(1~7日) ・食料: 5,300万食 ・毛布: 16万枚 ・乳児用粉(液体)ミルク: 20t ・大人/乳幼児おむつ: 416万枚 ・簡易トイレ等: 3,200万回分 ・トイレットペーパー: 318万巻 ・生理用品: 489万枚 	<ul style="list-style-type: none"> 【燃料】 ◎石油業界の系列を超えた供給体制の確保。また、緊急輸送ルート上の中核SS等へ重点継続供給・重要施設へ要請に基づく優先供給 【電力・ガス】 ◎重要施設へ電源車、移動式ガス発生設備等による臨時供給 【通信】 ◎重要施設への通信端末の貸与、移動基地局車又は可搬型の通信機器等の展開等による通信の臨時確保

佐倉市における自衛隊の具体的な活動とは？

Q. 佐倉市には、どのくらいの自衛隊が派遣されるのですか？

(荒井防災官) 首都圏直下型地震が発生した場合、千葉県には、県内の自衛隊の他に、青森にいる第9師団(約4000人)が応援に入ってきます。千葉県内からは、習志野(約2000人)、木更津(約1000人)、松戸(約700人)、下志津(約800人)が千葉県内の各地に派遣されます。佐倉市を含む地域を担当するのは習志野の空挺部隊です。その中の1個中隊80人が、佐倉市と酒々井町を担当します。

この部隊は、主に人命救助に当たります。やがて全国からの応援部隊も加わって、本格的な救助活動にあたります。人命救助には「72時間の壁」というものがありますが、その後も1週間から10日間にわたって救助活動が続けられます。一般的に、人命救助活動のピリオドは10日間と言われています。

自衛隊の最優先順位は人命救助です。「緊急性・公共性・代替性」という自衛隊にしかできないことを優先して活動します。その間、給水支援や給食支援については、自衛隊は対応しません。救援物資を自治体の指定する場所に届けますが、その先は自治体の役割になります。

Q. 佐倉市の物資の流れはどうなっているのですか？

被災都道府県からの具体的な要請を待たないで、**避難所にいる避難民への支援を中心に**、必要不可欠と見込まれる物資を調達し、被災地に緊急輸送をするシステムがあります。(※ブッシュ型支援)

期間は発災後4~7日間。佐倉市の場合、佐倉市体育館に運ばれ、その後、佐倉市の協力業者である運送業者によって各避難所に運ばれます。自衛隊も人命救助に目途がつき、全国からの応援部隊も整備されれば、給水活動や給食活動、風呂の設置などの活動にも携わります。



被災者の命と生活環境に不可欠な物資 基本8品目の例

- 食料
- 毛布
- 乳児用粉ミルク・液体ミルク
- 乳児・小児用おむつ
- 大人用おむつ
- 携帯トイレ・簡易トイレ
- トイレットペーパー
- 生理用品

※ブッシュ型支援…国が被災都道府県からの具体的な要請を待たず、避難所避難者への支援を中心に必要不可欠と見込まれる物資を調達し、被災地に物資を緊急輸送する支援形態。被災状況に応じて、都道府県を通して国へ要請して支援物資を供給してもらう方法をブル型支援と言います。

発災後1週間以内に国から届けられる支援物資。「自衛隊→佐倉市(運送業者)→避難所」と経由した支援物資ですが、その後はどのようにして被災者に届けられるのでしょうか？

避難所に派遣されている市の職員は数名程度。実際の配布作業は避難所の住民が担当します。それでは避難所以外の住民はどうなるのか?!

原則として、支援物資は『避難所の被災者が対象』です。想定被害状況を事前に把握し、その数字を基にブッシュ型支援の支援量が決められています。しかし、多くの住民には支援物資が届かないことになります。

国の計画では、5300万食の食料が準備されます。想定によると避難所生活者は約460万人。避難者一人あたり3~4日間の量です。これでは、避難所生活者以外の人達へ支援を回すことはできません。さらに、避難所の倉庫にある備蓄倉庫内の食料は、千葉県の備蓄を合わせても1日分程度です。国の支援物資が届くまでの数日間、避難所生活者はどうするのか? 大多数の“自宅避難”の住民はどうすればよいか?

国や自治体の災害対策計画はかなり進歩してきましたが、基本は『住民の防災意識』です。自分や家族の食料は自分たちで責任を持つ。ただし、自宅が全半壊して住めなくなったら、避難所で多くの支援で支えてもらう。そして、何よりも住民間の協力が、この難局を乗り切るためには必要不可欠なのです。

首都圏直下型地震発生時の佐倉市の応急対応計画に望むもの…

佐倉市のホームページで防災対策を調べてみると、詳細で多岐に渡る様々な計画が掲載されています。国や県の防災計画もあり、「これだけの計画があるのなら…」と、何とかかなりそうな気になります。

しかし、よく読んでみると、課題もたくさん書き込まれています。最後には、『**住民の自助努力と備蓄**』が問題解決の決め手になっています。

国からの支援物資が届き、それを避難所まで運ぶ方法として、佐倉市は運送業者と協定を結んでいます。その他にも、市内のガソリンスタンドで自家発電設備を持っている業者（全体の10%程度）ともガソリンの優先供給を受けるべく協定を結んでいるはずですが。

大震災発生時、これらが速やかに実施できれば、例えば避難所の防災井戸を動かす発電機の燃料の備蓄量は少なく済みます。

しかし、① **確実に燃料が供給される保証がない**。② **締結業者が被災する可能性がある**。③ **被災地が確実、円滑に燃料を確保できる体制の構築がなされていない**。など、不安材料が数多くあります。

そういった不安や問題解決のためにも、佐倉市と業者間での話し合いや訓練なども必要です。

佐倉市や協力業者の人員の確保や天候の問題も…

実際に首都圏直下型地震が起こった場合、停電が発生し、携帯を含めての電話連絡は一時的に途絶えます。人員の確保、大雨や大雪、台風などの気象条件の問題もあります。こういった状況になって、食料や燃料の供給が遅れる可能性もあります。そういった場合に備えるには、各自の備蓄しかありません。

住民が冷静に行動し協力をして災害を乗り越えていくためには、日頃の避難訓練は非常に重要です。実際に参加して気付くことはたくさんあります。住民の自主的な防災訓練の実施に、制約を付けずに積極的にバックアップしていくような姿勢を佐倉市にはお願いします。

自分達で組み立てるマンホールトイレ(水洗式)



昨年の防災特集号で提案した災害対策用備蓄としてのガソリン缶の件。多くの町内会・自治会の賛同を得て実施されています。避難所に発電機の燃料が十分供給されるまでの“つなぎ”として、防災井戸の水を地域住民に供給できればと思います。

避難所の防災井戸とマンホールトイレ使用は地域住民全員が対象

そうすると、問題は「誰が、水の配給を行うか？」です。当然、受益者が当番で担当するのが妥当。その当番体制づくりも平時に決める必要があります。水洗式マンホールトイレの水をどのように確保するかも問題です。

また、『**被災者**』の定義を、家を失った住民だけではなく、電気・水道が使用できずに自宅で生活できない住民も含める。さらに「在宅避難」という形での被災者認定がなされれば、支援物資配給対象者が増える可能性もあります。

編集後記

荒井防災官の災害現場体験者ならではのお話、大変参考になりました。ありがとうございました。

阪神大震災の時は、停電は神戸と淡路島の局地的なものでしたが、東京湾には発電所と製油施設が集中しています。停電はかなり広範囲になります。

現在の想定震源地では、湾岸の震度予想は6強～7！広域停電が長期化する可能性大です。(佐倉市の下水処理場も湾岸にあります…)

佐倉市からどこかに疎開するか、備蓄に努めて自宅で乗り切るか！

皆さんは、どっち？逃げ方も難しいですよ…(小柳)

